



参画だより

No.53

2014.7.31

弘前市民参画センター

PICK UP!

男女共同参画の視点で読む
世界の格言・名言



祭

ショーペン・ハウエル

われわれ各個人は
他人のうちに
自分を映す鏡を持っている

弘前市民参画センター事業紹介「第3回市民ボランティア交流まつり」ほか P 2・3

まなば「“男女共同参画”に思うこと」 P 4

おとこの気持ち聞いたやいました「心優しいスポーツマン」 P 5

さんかくひとりごと「男の涙」 P 5

ひと グループ男女・団体紹介「地域に笑顔と元気と健康を」 P 6

利用者・利用団体紹介「退職互助部中弘支部」ほか P 7

本の紹介「あの歌詞は、なぜ心に残るのか～Jポップの日本語力～」 P 8

センターからのお知らせ P 8



第3回市民ボランティア交流まつり 「つながろう！ここから生まれる地域のきずな」

2月16日、「第3回市民ボランティア交流まつり」を開催しました。

今回の交流まつりは、会場を市民参画センターから、ヒロ口3階、弘前市の公共プロアイベントスペース・多世代交流室に移し、39団体が参加して行われました。このイベントは、日ごろ市民参画センターとボランティア支援センターを利用している団体が中心となつて企画運営をし、自分たちの活動を市民に広く紹介しながら、他団体や市民との交流を深めるために年1回開催しています。



オープニングを飾った
弘前学院大学吹奏楽サークル
による迫力ある演奏

交流まつり実施委員会代表の久保田勝一さんによる開会の挨拶に続き、イベントスペースに設置したステージでは、希望した9団体による活動発表会が行われました。「弘前学院大学吹奏楽サークル」や「オカリナ・アンサンブルこだま」による演奏が美しい音色を響かせました。朗読ボランティアグループの感情表現豊かな読み聞かせや、「新日本婦人の会弘前支部」のメンバーが色鮮やかな衣装に身を包んだフラダンスを披露すると、来場者から拍手を浴びていました。



弘前大学ボランティアセンターの学生とガールスカウトの子どもたち

また、福祉施設などによるパンやお菓子の販売では、「販売を楽しみにしていました」という来場者がたくさんのお買い物を楽しむなど、多くの来場者でにぎわいました。



お話シャワー



新日本婦人の会弘前支部

★展示・体験・販売★

会場内にはパネルを展示し、各グループの活動内容をPRしました。

「弘前大学ボランティアセンター」

では、市内の除雪活動の様子や、東日本大震災以降から続いている、岩手県野田村での支援・交流活動の様子をパネルに展示し、地域に根差すボランティア活動を紹介しました。地球温暖化防止活動をしている「あおもりアースレンジャー」が、「あおもりアースレンジャー」は温暖化の現状や対策の重要性について展示や情報提供をしました。来場者は各パネルを回り理解を深めていました。

アートバルーンの
できあがりを
楽しみに待つ親子



マッサージを受ける来場者

体験のコーナーでは、子どもたちが「アートバルーンはまちゃん」の前に並び、アンパンマンやかわいらしい動物のできあがん」の前に並び、アンパンマンマツサージを受け、リラックスした雰囲気でメンバーと会話しながら、体験を通して交流をしていました。

マツサージや肩もみを体験できる「りんば☆イズム」「肩もみ俱楽部」では、来場者がマツサージを受け、リラックスした雰囲気でメンバーと会話しながら、体験を通して交流をしていました。

また、福祉施設などによるパンやお菓子の販売では、「販売を楽しみにしていました」という来場者がたくさんのお買い物を楽しむなど、多くの来場者でにぎわいました。



救命法を真剣に学ぶ
研修会の様子

2月28日、弘前市子育てサポートシステム「さんかくネット」の子育てサポート研修会を市民参画センターで実施しました。

今回は、サポートより要望のあつた「知つておきたい子どもの安全と応急処置」と題して、弘前消防署の櫻庭信人さんと戸沼康さんを講師に迎え、救命救急処置の方法などを学びました。

託児では、乳幼児との関わりが多いため、食べ物をのどに詰まらせてしまつたときの異物の取り方である背部叩打法と、胸部突き上げ法のやり方を学びました。

また心肺蘇生法では、サポート全員が乳児の人形に実際に触れ、



乳児の人形で練習する
子育てサポート

さらに、救急車到着までのわずかな時間（平均8分間）に、居合わせた人が救命処置をすることで、助かる確率が大幅に上がることや、AEDは音声にあわせて指示通り落ち着いて使用すればよいことなどを学びました。

サポートからは、「去年習得したはずの救命法をすっかり忘れていた」「毎年、最低1回は救命に関する研修をやってほしい」「具体的でよく理解できた」など感想が寄せられ、参加した9名のサポートは、メモを取りながら、真剣に取り組んでいました。



昆虫観察で命の大切さを
伝えることができる学ぶことを
子育てサポート

6月24日、弘前市子育てサポートシステム「さんかくネット」の子育てサポート研修会を市民参画センターで実施しました。

今回の研修会は、城東保育園園長で、「キッズネットクラス」などのボランティア活動もしている三浦テツさんを講師に招き「子どもとの遊びを楽しむコツ」と題して、子どもへの接し方や、遊び方について学びました。

三浦さんは、柔らかな素材でできた赤や緑の風呂敷をサポートに配り、まず色から何を想像できるか質問をしました。そして、その答えから会話が広がっていくことや、その風呂敷を使い丸めることで危なくないボールにして遊ぶことができるなど、言葉や手

を使い、おもちゃや道具がない場合でも身近にあるものを利用してコミュニケーションが取れることを紹介しました。

また三浦さんは、大事なものや大切にしているものに子どもが触れようとしたときの接し方にについて「これはたいせつ、だいいじだいじ、やさしくね」と話しかけることや、本当に触れてはいけないものなどには触れさせないように働きかけるなど、さまざまな状況でそれぞれタイプが違う子どもに対する真剣な駆け引きが必要だとアドバイスしました。

参加したサポートは、三浦さんに質問をするなど、ユーモアと愛情あふれる体験談に耳を傾け、日ごろの活動の参考にしたいと聞き入っていました。

平成26年度 第1回 「さんかくネット」子育てサポート研修会



「子どもには
想像を膨らませて
遊んで欲しい」と語る
講師の三浦さん

まなぼ

「男女共同参画」に思うこと

このページは男女共同参画についての学びを深めよう
ということから企画されているページです。



いまさら?ではあるが、参画だよりの編集に関わっている人たちに「男女共同参画」ということについてどう考えているのか投げかけてみた。

- 時間はかかるだろうが、少しずつしか人間は変われない。「男女共同参画」など難しい言葉が必要でなくなるまで、自然体でいればいいと思う。
- 農業従事7割という地域で、家事・育児・農作業に追われている母を、同じ人間としてかわいそうだと思ったことがあった。しかし、母は、家事・育児・農作業を自分の仕事として誇りを持ち、自分の経験やできることを生かし、社会とつながっていることを知る機会があり、私は自分を恥じた。ひとりひとりが、男女差、年齢差を問わず個性を生かし、それぞれが違う形でいいから社会に関わっていくことが大切なのだと感じる。
- 社会では女性に優しい取り組みがされている。女性保護が女性優遇だと男性にとらえられ、男女が対立してしまっては逆効果である。本当に男女共同参画社会が実現したときには男女のどちらかを保護、優遇することはなくなっているだろう。性別による差別がなくなれば「男女共同参画」ということが当たり前になり、「男女共同参画」というフレーズも不要になるのだろう。
- 男女共同参画を進めて解決、改善したかったことって何だろう?政府や行政がすべきこと、社会一人ひとりがすべきことがある。男女共同参画の推進と少子化対策、どちらが大事?どちらも…。
- 男女共同参画という言葉はかなり浸透してきている。男だから、女だからということではなくお互いにできることはやると話す人が多い。男女共同参画という言葉はあえて使わなくてもいいのでは?では、これからどうする?と思ったときに、ひとりの人間として自分にできることをしていくことだろうと思いながら、先に家にいる夫がご飯支度をしてくれないかなあと思ったりする自分がいる。
- 以前に比べると進んでいるように感じる女性の社会進出。しかし、昨年発表になったジェンダーギャップ指数を見ると、136ヶ国中、日本は105位と依然として信じられないような順位となっている。努力してる人が報われ、結果として数字として出ることを望みたい。
- メスは子を産み、巣を守り、オスは餌を運ぶという原始的な男女共同参画から、現代の男女共同参画では、女性の子どもを産む自由、産まない自由で社会も変わった。今は簡単に男、女と区別できないマイノリティの人たちもいる。これからはグローバルな共同参画社会に移行していくのでは?
- 客観的には男女共同参画ということを理解しながらも、幼いころから植えつけられた考え方や習慣はなかなか直らない。わが身のこととなると、つい「男のくせに」とか、「女なんだから」という思いが頭をもたげて失笑することがある。そこで気づくかどうかが大事なことだと思っている。

今後も機会を見つけては「男女共同参画」について考えていきたいという
思いです。皆さんにもいま一度、「男女共同参画」について考えていただ
きたくて、このような「まなぼ」のページにしました。



Q. 男女共同参画って知っていますか？

A. 聞いたことはあります。でも説明はできな
いです。

Q. 職場で男女の差別はありますか？

A. ないです。仕事はポストマンですが、女性
は1割ほどで、同じ仕事をしています。

Q. 将来、子どもが生まれたら育児休暇をとりま
すか？

A. 知っていますが、先輩たちがとらないので
…、実際仕事の形態がくずれるのでとりづ
らいと思います。本心はとりたいです(ニ
コッ)。

Q. 子どものしつけ、教育の主導権はパートナー
ですか？それとも自分？

A. 時間をやりくりして、ふたりで協力してや
りたいです。

Q. 「男だから」といって我慢したことがありま
すか？

A. う～～。思い当りません。自分に支障がな
ければ、OK。YESマンなところがあります(笑)。

Q. 理想の女性は？

A. 家族の和をもてる人。



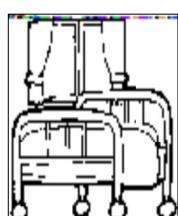
30代・会社員・独身

インタビューを終えて

～心優しいスポーツマン～

地域のスポーツ大会でどの種目にも参加す
る選手がいた。頼まれるとイヤと言えない、
誰とでも打ち解けて話せる、何処にそんな力
があったのと思うほどガマン強い。それは高
校から始めたバスケット、名門校なので、勿
論スタメンにはなれないと知っている。でも
好きな事をするためならどんな努力もする。
見えていても気持ちが良い青年だ。 梅

～男の涙～



ある日男の携帯電話が鳴った。都会でひとり暮らしをしている姉の主治医からの電話だった。難病におかれ、延命治療を拒否している姉の独居生活には限界があるということだった。「この先ひとりでは不安だろう」、「姉も故郷に帰りたいだ
ろうな」と思い、連絡を試みたが電話では言葉も聞き取れない。会う必要があるよう
うだ。

男は自宅へ連れて帰りたいと思い妻に相談する。3つ上の姉である。定年退職し、
時間的に余裕もある男は、自分のできる限りのことはするつもりでいる。元気なう
ちにゆっくり過ごさせたい、という思いを妻に告げ了解を取り付けた。早速、姉の
もとへ出かけ、あとのこととはゆっくり考えることにして、自宅へ引き取ることにした。

妻は思った。夫はこんなにも優しい人間だったのか？親の介護はすべて私に任せ
きりだったのに…。今、姉の介護をしようとしている。姉の様子を涙ながらに語る
夫を不思議な思いで見つめる。夫は私のためにも涙することがあるのだろうか？男
の涙も悪くはない。

ケアメン（介護をする男性）が増えている。母の介護、妻の介護と
必要に駆られてではあるだろうが、できることをやろうとするのは當
然のことだ。母の介護をしていた父の姿を思い出す。厳しくて仕事人
間のような父だったのに、息子の妻に任せきりにはできないと…。



せ
ん
か
く
ひ
と
り
ご
と

地域に笑顔と
元気と健康を

「あんよ・せらぴー共育研究会」の会長として市民活動の『足育』のみならず、子育て支援と世代間交流事業などに取り組んでいる境江利子さんに、「ひろさきアフタースクール」開校について伺いました。

★開校のきつかけ

市内の中学校の登校アドバイザーとして不登校傾向の生徒と
関わったことで、子どもたちの放課後の時間（小学生から）に
先生・保護者でもない、地域のたくさんの大人が安心・安全に見守り、寄り添うことの大切さと、子どもたちがもつと多くの学びや遊びを体験することの必要性を感じました。



楽しい 英語のレッスン



沢山の親子が集まつた 理科実験の様子

★活動内容
アフタースクールでは、講師（プロではなくても、関わる大人）の方々を「市民先生」と呼んでいます。ヒロロスクエアコミュニケーションゾーンでは第一、三水曜日午後3時から6時まで、学校の放課後をイメージして、子どもたちには市民先生による本物の体験や、ボランティアの大学生と楽しく遊んでもらい、ぴー共育研究会」の事業の一つとしてやってみようと決断しました。

「ピ－共育研究会」の事業の一つとしてやつてみようと決断しました。

保護者には放課後の現状についてアンケート調査を実施。市民先生のほかに、各界で活躍して

ど公共施設は老朽化が進んでい
ることが気になります。なかよ
し会が小学校に設置されている
ところもありますが、まだわず
か数か所で、また、制度上登録
要件があり、利用できる児童は
限られます。

★「小学生の放課後」「土曜日の在り方」の現状

プも行い、テレビでも有名な松延康先生による「親子で本気の理科実験」では、87組もの低学年の親子が参加し、実験の面白さに子どもたちのとびつきりの笑顔が会場いっぱいに。

活動はヒロ口のほかに、中央公民館岩木館（第四水曜日）と相馬昂集会所（第二水曜日）でも行っていて一部、弘前市市民

★今後の展望

このような状況ですが、昨年より市の教育委員会は、弘前大学教育学部と連携し、「ひろさきラーニング・コモンズ」（放課後や土曜日に小・中学生が学生に勉強を教えてもらつたり、一緒に遊んだりできる、通称「B.i. B.i. つとスペース」）を実施。ここでも私たちはサポーターとして協力しています。

私たちちは、文部科学省（放課後子ども教室）・厚生労働省（学童保育）の枠を超えて、学校、家庭、地域、行政が一体となり、周囲の助言もいただきながら、未来ある子どもたちの「生きる力」を育むために、老若男女さまである市民の生きがいを持つた自主的な社会参加に期待し、皆さんと手を携えて、笑顔で元気に楽しみながら、細く長く活動していくたいと思つています。



境江利子さん



総会でのアトラクション

なっています。会員の皆さんを、中学校区（一中、二中…）の166班に分け、連絡員を組織し、会員の構成は、弘前市・中津軽郡に在住する退職互助部会員で組織され、平成26年4月現在2120名と

退職互助部中弘支部

昭和61年設立の中弘支部も今年で第29回総会を開催することができました。当支部は一般財団法人青森県教育厚生会退職互助部中弘支部の名称で、会員相互の連絡親睦と福祉の増進を図ることを目的としています。

会員相互の連絡親睦

支部の役員が対応し、80名程の会員が出席しています。請求用紙の書き方の相談をしたり、近況報告などの話題で盛り上がっています。

会員が出席しています。請求用紙の書き方の相談をしたり、近況報告などの話題で盛り上がっています。

支部設立時には、確定申告などを手続き研修会、療養補助金請求説明会、相談会を実施していましたが、現在は療養補助に関する相談会を開催しています。

毎年の総会時には、講演・アトラクション・懇親会を実施しています。講演では、大学や病院の先生、地域の著名人の講話を拝聴し、アトラクションでは、津軽三味線、器楽演奏、コーラス、最近ではよさこいなどのステージ発表を鑑賞させていただきました。

以前は総会等への参加者が200名を超えていましたが、現在は100名を切っています。会員の高齢化が進んでおり、若い会員に参加を呼びかける活動の必要性を痛感しています。

幹事・役員・連絡員の協力を基盤とし、会員にとって居心地の良い退職互助部中弘支部でありたいと思っています。

退職互助部中弘支部事務局

齊藤
義男

センター利用者に突撃インタビュー

60代・女性



◆センターの利用目的と利用頻度は？

「ほほえみネットワーク」会議運営のため、月1～2回程利用しています。

◆センターを利用してみた感想をお聞かせください。

2Fのふれあいホールは、無料で予約しなくても必要なときにいつでも気軽に使えるのが良いですね。それから場所が集まりやすい所にあるので便利です。会場も明るくて仕事がしやすいので気に入っています。

◆当センターへ要望がありますか？

いつも気持ちよく使わせてもらっています。強いて言えば、駐車場が狭いのですぐ満車になります。使いないときには近くの有料駐車場を使いますので、もうちょっと広かつたら嬉しいですね。

◆「男女共同参画」について聞いたことがありますか？

なんとなく聞いたことはありますが、説明してくださいと言われるうまく言えないです。

◆「男女共同参画」についての感想をお聞かせください？

特別意識して実行しているわけではないですが、例えば男の人は力があるので自然に力仕事を頼みます。女の人は繊細な人が多いので細かい事を頼むなど、その人その人にできることを自然に支え合っていけたら良いと思います。

◆「今一番」の楽しみは何ですか？

気の合う仲間と余暇を楽しむことです!!旅行・ドライブ・温泉めぐりなど楽しく過ごせることです。病気をしているので、とにかくストレスをためないように心がけています。



「ほほえみネットワーク」の仲間と作業中の人に快くインタビューに答えてくれました。手は休めないで動かしながらお話をしてくれてありがとうございました。また一緒に作業をしていたみなさんも見守ってくれていてほほえましく感じました。仲間がいるっていいなあ。
by のん

市民参画センターからのお知らせ



★女性のための専門相談

日時：平成26年9月9日(火)14:00～16:00
平成26年12月9日(火)14:00～16:00
平成27年3月10日(火)14:00～16:00
場所：弘前市民参画センター
内容：法律に関する問題について、弁護士がアドバイスします。
※あらかじめ電話でご予約ください。ご予約の際、弁護士への相談がスムーズにできるように相談員が相談内容をお伺いします。定員：各相談日 1人40分 3名
問い合わせ：アピオあおもり
(青森県男女共同参画センター相談室)
017-732-1022 (9:00～16:00 水曜定休)

●開館時間の変更

市民参画センターは、8月1日(金)～8月4日(月)の4日間、ねぷた運行による交通規制等のため、17時で閉館します。

●臨時休館

市民参画センターは8月27日(水)・28日(木)の2日間、施設点検等のため休館します。

編集後記

今年度最初の参画だよりです。ただ今梅雨真っ最中ですが、例年に比べ、今年はそれほど嫌な天気ではない気がします。季節の移り変わりは体調を崩しやすいとよく言いますが、四季のある国に住む日本人は風邪をひきやすい傾向にあるのでしょうか？逆に季節変化のない国の人々は、風邪をひきにくいのでしょうか？気になるところですね。

by 水口

弘前市民参画センター

〒036-8355 弘前市大字元寺町1番地13

TEL 0172-31-2500

FAX 0172-36-1822

開館時間 9:00～22:00

休館日 12月28日～1月3日

http://www.city.hirosaki.aomori.jp/gaiyo/shisetsu/kyouiku/htm_sankaku/framepage.htm

本の紹介

「あの歌詞は、
なぜ心に残るのか
～Jポップの日本語力～」

山田 敏弘 著
祥伝社 刊



～日本語だからこその表現？～

「あの歌のこのフレーズが好き」だとか、逆に「この部分の言い回しがどうも気になる」など、心に残る歌詞はないだろうか？本書ではJポップを日本語文法で分析していく。昭和の懐かしい歌謡曲やフォークソングから現在の楽曲までいろいろな歌詞が登場する。「Jポップ」とは1990年代から使われるようになった言葉で、今では演歌など特定のジャンルを除いた「日本の歌」、「日本のポピュラーソング」をひとくくりにして「Jポップ」と呼ぶようになっているとのこと。

第1章では「助詞」、2章では「助動詞」、3章では「接続表現」、4章では「モダリティ（気持ちを込める文末表現）」、5章では「その他の技法」を取り上げている。そして各章の間に「コラム」があってこれがまた面白い。特に「ちよいと古風な表現」と「当て字」は興味深く読んだ。

助詞の使い方も時代の流れとともに変化しているという。例えば「が」と「を」という助詞は入れ替わっても意味が通じることがある。「あなたが好きだ」「あなたを好きだ」というように。「が」を使うか「を」を使うかで歌詞の伝わり方が違うという。近年では「が」よりも「を」の方がより多く使われるようになっているとか、「が」と「を」を同じ歌詞の中で使い分けることで微妙な心の動きを表現しているなどと分析する。果たして作詞家が本当にそこまで考えて詩を書いたのだろうかと思うほどの分析力に感心してしまう。日本語の「助詞」の持つ役割は大きいのだ。

学校で学んだ文法ではとても理解しきれない説明が読み手の興味をひく。日本語を使っている日本人として日本語力を見直すいい機会になるのでは！
by komori

